



11月

2学年通信

まじめな努力 = 楽しい時間

担当：森 健人



＊ ＊ ○ ○ の 秋 ＊ ＊

皆さんは○○の中に何が入りますか？ 芸術、食欲、スポーツが代表的ですね。あと今月の月訓の「読書」でしょうか。近年、若者の文章を読む力が低下していると指摘されています。

いやいやスマホで小説を読んでいる！という人もいるでしょう。一概に全員ではないですが、私が見ている皆さんたちで本を物理的に読んでいる人は少ないです。

新聞も家庭で購読しているのが減っており、みなさんも興味がある記事もないので、年に数回見るか見ないかではないでしょうか。そのために、文字を読んで理解する力「読解力」が養われないのです。そのため試験の問題を理解できず、間違えてしまうということもあると思います。

＊ ＊ 読書から新しい情報を得て、実生活をより一層に充実させる ＊ ＊

ここで、私から皆さんに、ぜひ読んでほしい一冊の本を紹介させていただきます。石井貴士さんの『やってはいけない勉強法』（きずな出版）です。皆さん、生活を送るうえで「選択」を迫られることがよくありますよね？その際に皆さんは、どのように考え、判断しますか？私はこの本に出会う前までは、「どうすれば上手くいくかな。」「何が正解なのかな。」と悩むことが多くありました。しかし、この本に書いてあったことは「やってはいけない」をしなければ、正しい結果に自然となっていくという結論でした。例えば、スピーチをする際に、「どうすれば上手くいくだろうか。」と思い、過度な緊張をしながら取り組んでしまうときがあったりしますよね。結果、緊張感がさらに増してしまい、後悔した経験はありませんか？本書の考え方をを用いると、まずは「やってはいけないスピーチは何だ？」と考え、「自分の一番伝えたいことが伝えられないことだ。」と設定します。次に、それをしないように注意することを整理して、最後にその「やってはいけない」を意識して、取り組むことができれば、少なくとも普通以上の成果になっていくという考え方です。

私はこの本に出合ってから、「やってはいけない」を最優先に考え、物事に向き合うようにしています。ぜひ、皆さんもこの考え方を参考にしてみてください。



＊ ＊ 修学旅行に向けて、日々の学校生活の徹底 ＊ ＊

高校生活の中でも、ビックイベントのひとつである修学旅行がいよいよ来月となりました。私は沖縄コースに引率して行きますが、沖縄コース、広島・関西コースともに、生徒の皆さんもしっかり準備をしましょう。各自で調べたものを、班で共有して当日スムーズに動けるようにしましょう。沖縄コースの事前指導で挙がっていた3点を共有させていただきます。

「1. 時間厳守」、「2. メリハリ」「3. 体調管理」！！この3点を意識して、毎日の学校

生活を送っていきましょう。

☆11月（霜月）の行事予定・月訓『読書』

1	土	受験対策講座	11	火	執行部合同会	21	金	計算技術検定
2	日		12	水		22	土	下期第一種 電気工事士技能試験
3	月	文化の日 	13	木	身だしなみ指導（再）	23	日	勤労感謝の日 全商ビジネス文書検定 
4	火	私学協会表彰式典	14	金		24	月	振替休日
5	水	2年生ベネッセ総合 学力テスト（午後）	15	土	保護者会・後援会研修会 受験対策講座	25	火	二学期期末試験①
6	木	2年生ベネッセ総合 学力テスト（終日）	16	日	第2回実用英語技能検定	26	水	二学期期末試験②
7	金		17	月		27	木	あいち県民ホリデー
8	土	第1回学校説明会・相談会	18	火		28	金	二学期期末試験③ 学校説明会・相談会準備
9	日	全商ビジネス 計算実務検定	19	水		29	土	第2回学校説明会・相談会
10	月	後期生徒会選挙 身だしなみ指導	20	木		30	日	

☆コラム 基礎は応用につながる。

先月のノーベル賞ウィークにおいて、日本人研究者2名が栄誉ある賞を受賞したことは記憶に新しい。大阪大学特任教授の坂口志文氏は、制御性T細胞の大量作製技術確立し、免疫細胞の不良品が引き起こす自己免疫疾患の治療に生かせる技術として高く評価されている。また、京都大学高等研究院の北川進氏は、多孔性金属錯体の開発により、地球温暖化ガスの回収や多孔性材料の微細な穴にガスを貯蔵できることから燃料電池などの蓄電技術への応用にも期待できるとして、その研究成果が認められた。ノーベル賞は、このように研究成果が、人類に最も貢献した業績であると認められた場合に与えられるものであるが、世の中には応用研究を支える基礎研究に取り組む研究者が多く存在し、未知なるものの解明のため果敢に挑戦している。ある特定の応用や用途を目的とせず、現象や事実に関する新しい知識を得るための研究が基礎研究である。しかし、そのような研究成果の中から、いずれ私たちの生活に役立つ応用技術が生まれるのである。ノーベル賞のような華々しい成果は、数多くの基礎研究という基盤があるからこそその成果といえる。君達が、高校生活で学んでいる勉強も、時折、何のための勉強なのかわからなくなることがある。しかし、様々な分野（教科）の基礎的なところから始まる勉強は、確実に個々の基礎学力を向上させ、将来、君達の前に立ちはだかる多くの課題や試練を克服するために必要な応用力につながっていくのである。君達の日々の努力が、いつどのような形で成果として現れるのか誰にもわからないが、努力は人を裏切らないものと思う。～2nd Grade Teacher Okubo～